

学芸員がおすすめするA展示室のおすすめスポットです。展示室の中を探してみてください。

巣穴も化石になります



河原の立木



実は本物の地層です



わかるかな？



壁の様子は、このあたりが海だった頃の海岸の生き物がつくった巣穴の化石です。時代は琵琶湖ができるよりずっと前の約1700万年前。ただし、型取りして作ったものです。

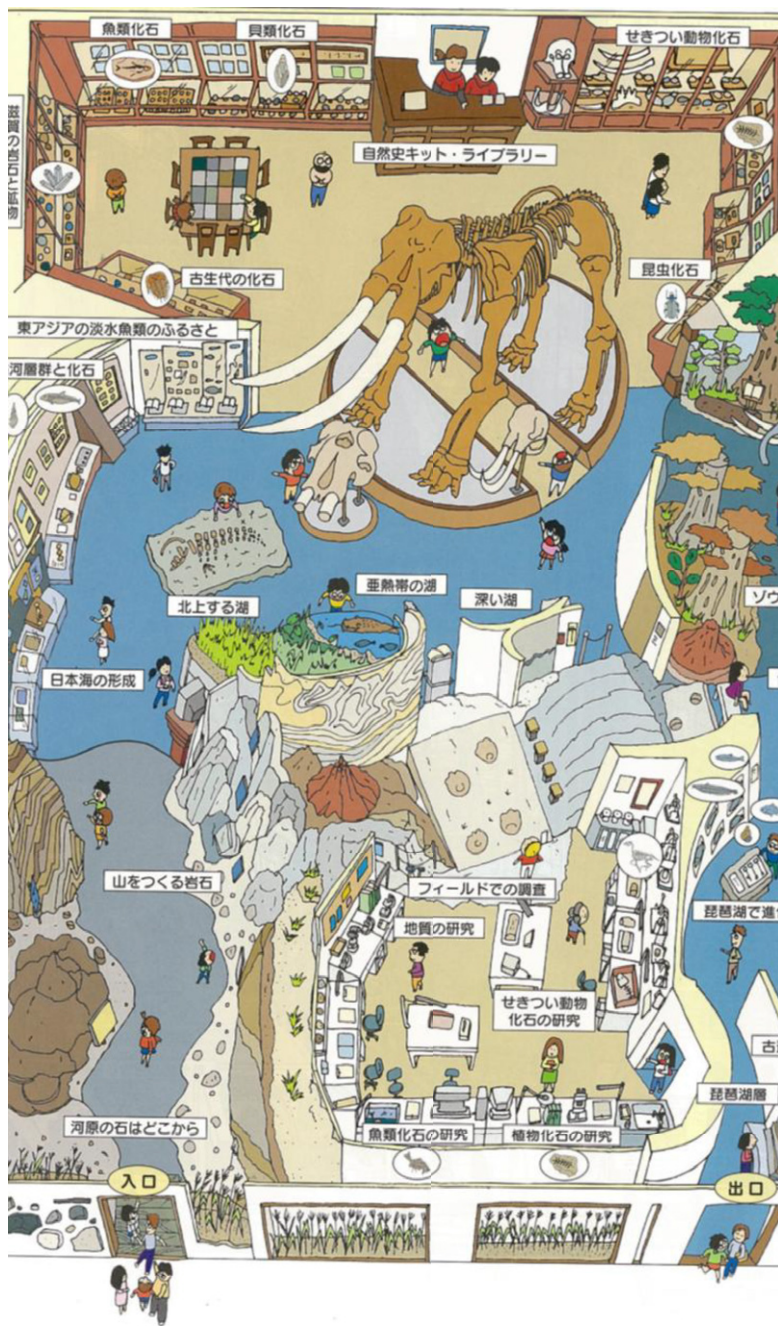
河原の黒い塊は、約180万年前の湖周辺に生えていた樹木の化石で、本物です。当時の環境を知るための重要な標本のひとつです。

入ってすぐ右側の壁は、一見、演出用の作り物に見えますが、野外にあった実物の地層です。よく見ると大型動物の足跡化石もあります。

入口の壁に埋め込んでいる岩石は、滋賀県でみられるものですが、本物と作りものが混ざっています。より冷たく感じるものが本物です。

これで見納め 展示室をとことん味わおう！

学芸員が語る展示のひみつマップ (A展示室)



曲がり角に置かれている上がとがった展示ケースの中は、この地域で調査をしている方が採集された鉱物です。実はこのケース、その方による自作です。

いろいろな色のタイルが埋め込まれた机。このタイルは、すべてが滋賀県産です。採集された岩石を切ってつくりました。

カウンター後ろの棚に、滋賀県に落ちた田上隕石の展示があります。かなりの大きさで日本一重いというのも納得。残念なことに、展示はレプリカなので本物ほど重くはありません。

ゾウの頭骨化石が並んでいるところにあります。歯並びをチェックして、「ゾウの歯医者さん」気分をどうぞ。

その1

地域の人の自作の展示



ぜんぶ滋賀県産の石です



日本一重い隕石です



巨大なデンタルミラー



その2

古琵琶湖を楽しむ

順路の右側は琵琶湖の前身である古琵琶湖のようすを発掘成果から再現しています。

亜熱帯の湖（大山田湖）



最初の古琵琶湖である大山田湖の様子です。時代は約400万年前。学芸員と相談しながら、滋賀県在住の画家のブライアン・ウィリアムズさんに原画を描いていただきました。ワニやゾウが描かれていますが、これは化石をもとにしています。

深い湖（甲賀・阿山湖）



約300万年前の湖はそれなりの深さがあり、岩場の湖岸がありました。岩の上にはピロコオオナマズが・・・湖中にあるような写真が撮れるらしく、隠れた人気スポットになっています。

ゾウのいる森（蒲生湖）



約180万年前の様子です。湖畔のアケボノゾウの親子がいる場所には、はいりこんだような情景を再現しています。実はこの展示の一部には本物の化石が使われています。

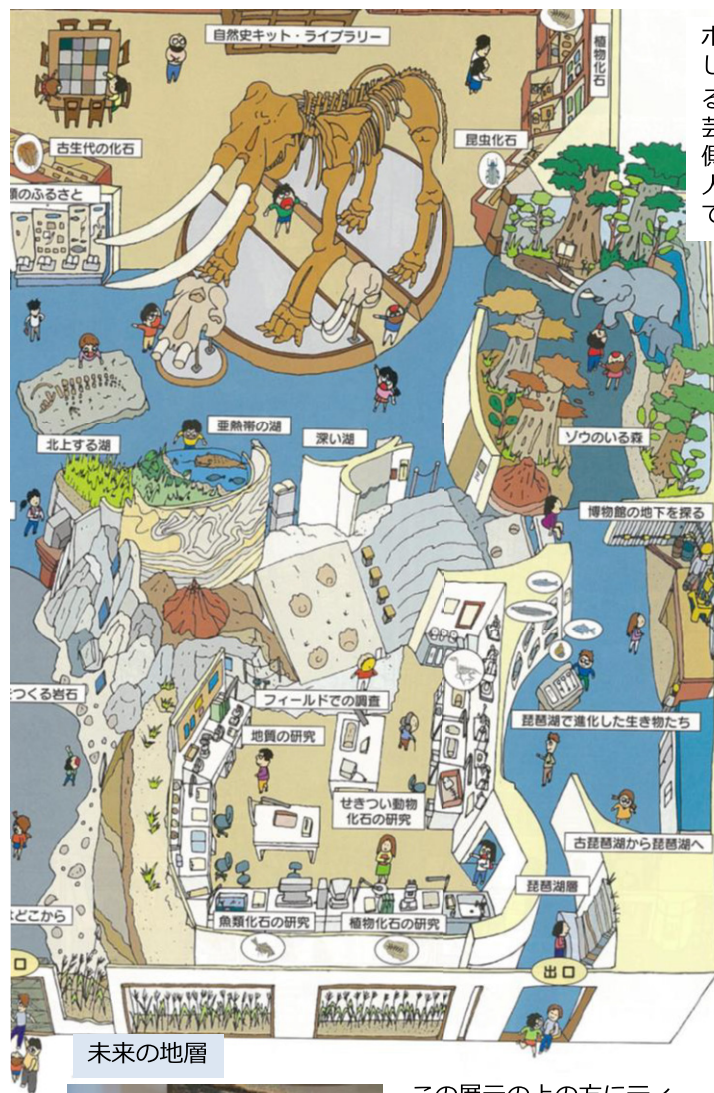
古琵琶湖と現在をつなぐ



地下の温度体験が人気のコーナーですが、主役は博物館の地下から採取した本物の地層の標本です。約180万年分の連続した地層の標本には、琵琶湖が連続して存在した証拠があるとみられ、今も研究が進められています。

これで見納め 展示室をとことん味わおう！

学芸員が語る展示のひみつマップ（A展示室）



ボーリング調査の方法を再現している小屋の中。働いている人の写真には20年前の学芸員が写っています。一番右側で窓越しに作業をしている人は、若かりし頃の高橋館長です。

最後の方にある研究室の展示では、表に出て居るもののほかに、引き出しの中にもいろいろなものがあります。ぜひチェックしてみてください。

足跡化石の展示の横に野外調査で実際に使われる道具が並んでいます。その多くは見慣れたもの。どんなふうにか使うのか想像してみてください。

これは骨の標本を作っているところの展示で、『開けてはいけない』と書いてるところまで再現したものです。ぜひ開けてみてください。

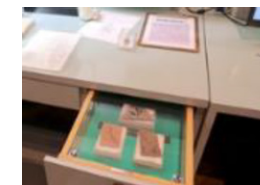
この展示の上の方にティーカップやペットボトルなどがあります。これは、現在私たちの足元の土砂の中に、私たちが生きていた証拠が埋まって地層に残されていくことを紹介しています。

石や地形について興味深い地域を紹介するコーナーです。草津の天井川のトンネルのように、もうなくなったものもあります。時代の変化を感じます。

ボーリング調査小屋の中の人



机の引き出しを開けてみよう



意外と普通？野外調査の道具



開けてはいけないバケツ



今はないものの紹介も

